

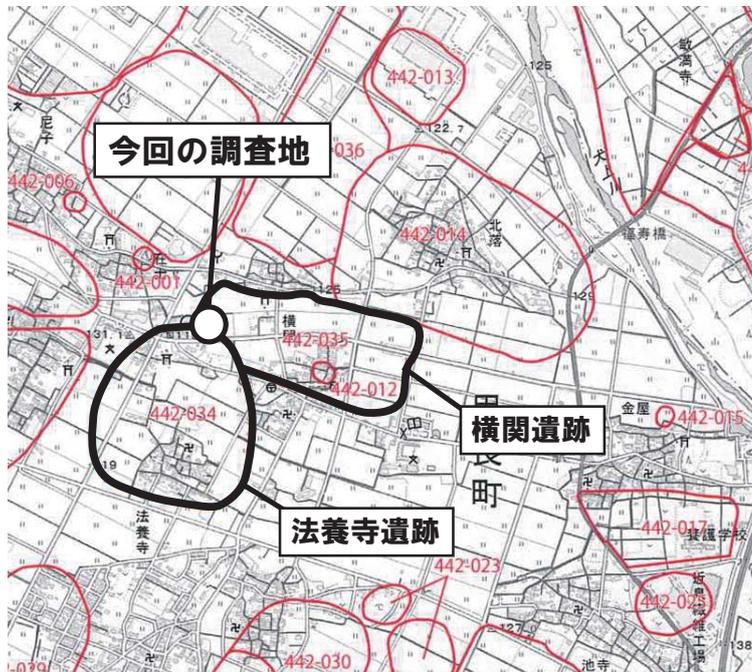
ほうようじ よこぜき 法養寺遺跡・横関遺跡 発掘調査現地説明会資料

平成29年5月27日(土) / 甲良町教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages



甲良町総合防災センター建設に伴い、事前に試掘調査を行ったところ、地下に遺構や遺物が確認されました。

そこで、甲良町教育委員会を調査主体として、公益財団法人滋賀県文化財保護協会が発掘調査を実施しています。

調査の結果、飛鳥時代から奈良時代の集落跡に加え、土器などの多数の遺物を発見することができました。

- ◇調査面積 : 1,012㎡
- ◇調査期間 : 平成29年4月～6月初旬(予定)
- ◇調査主体 : 甲良町教育委員会
- ◇調査機関 : (公財)滋賀県文化財保護協会

(1) 発掘調査の方法

発掘調査は以下のような手順で行っていきます。

- ①試掘調査の結果にもとづき、遺構（昔の建物の柱や井戸、溝などの構造物の痕跡）が見つかる高さまで重機で掘り下げます。
今回の調査では、約80～100cmほど掘り下げた箇所で見つかりました。
- ②手ガリ（両刃鎌）や手スコ（移植ゴテ）などの道具を使用し、地面を慎重に削り、土の色の違いなどを見極め、遺構を探し出します。
今回の調査では、建物や溝の痕跡を見つけることができました。
- ③発見した遺構を、手スコ等を使用して、遺物に注意しながら慎重に掘り進めます。
- ④掘りあがったら、写真撮影や図面などで詳細に記録します。
- ⑤すべての遺構を掘削し、記録を終えたら埋戻しを行います。



重機による掘削状況

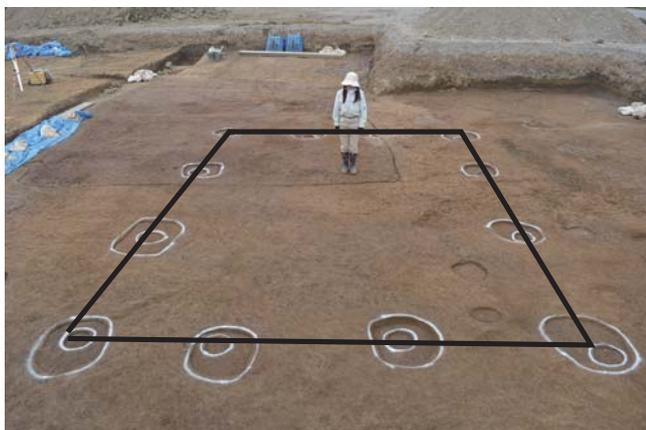


溝を人力で掘削している風景

(2) 発掘調査の成果

今回の調査では、主に飛鳥時代から奈良時代(約1,200～1,400年前)の遺構、遺物を発見しました。主な遺構としては、奈良時代の^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居が2棟、^{ほったてぼしらたてもの}掘立柱建物が2棟、そして飛鳥時代から奈良時代の溝があげられます。竪穴住居は一辺が6mのものの一辺が3.5mの二つのサイズのものが見つかりました。うち大きなサイズの住居は、一定期間使用されたのちに拡張した可能性があります。掘立柱建物は、竪穴住居が埋没したのちに、ほぼ同じ地点に建てられていました。溝は、幅が3～5m、深さ約1mの規模があります。当時のこの集落における貴重な水源としても利用されていた可能性があります。

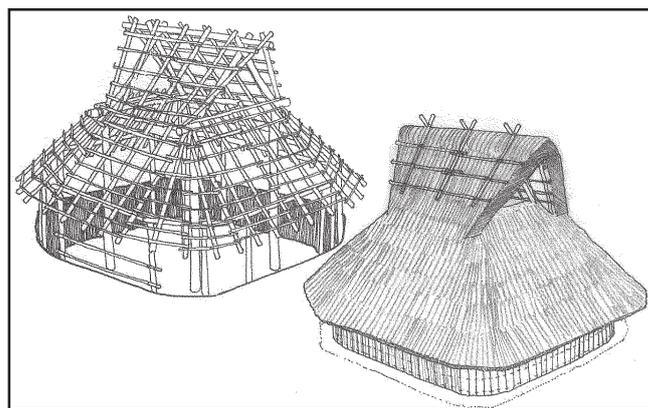
また、それらの遺構に伴って、^{すえき}須恵器や^{はじき}土師器などの遺物が多数出土しました。なかでも特殊な^{じんぐうかいほう}遺物として、「神功開寶」と呼ばれる古代の銅銭が出土しています。^{わどうかいちん}「和同開珎」をはじめとする律令制下で鑄造された銅銭のひとつです。



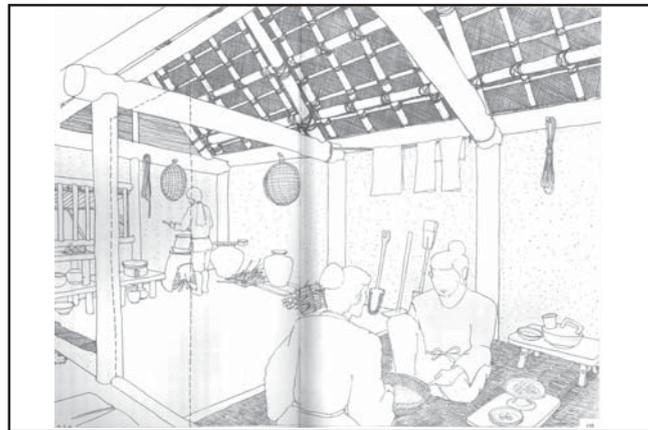
掘立柱建物 検出状況



竪穴住居 検出状況



竪穴住居 復元図 (出典 鬼頭清明『古代の村』岩波書店 1985)



掘立柱建物 復元図 (出典 鬼頭清明『古代の村』岩波書店 1985)

(3) まとめ

現代の甲良町は、犬上川ダムをはじめとするさまざまな整備事業によって、美しい水の郷として認知されています。しかし、かつてのこの地域は必ずしもそうではありませんでした。それは甲良町一帯が、犬上川によって運ばれた土砂の^{たいせき}堆積で形成された「扇状地」と呼ばれる地形上に位置することに起因します。

扇状地の特質のひとつとして、地下水位が地面よりもかなり低いところにあることから、水を得ることが困難な地形であることがあげられます。そのため、開発にはかなりの労力と技術力が必要であったことが想定されます。今回見つかった飛鳥時代から奈良時代の集落においても、検出された溝の存在から命の源たる水を得ることに注力していたことがうかがえます。今回の調査成果は、かつて甲良町に住んだ人たちの営みを知る上でもとても貴重な資料であるといえるでしょう。